

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	OCTANE CARBON		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.560	△RG 0.042	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

**テストボール：OCTANE CARBON**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

4-1/2

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

ポリッシュ

研磨剤

番

**比較対照ボール：OCTANE BURN**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

4-1/2

表面加工

箱出し状態

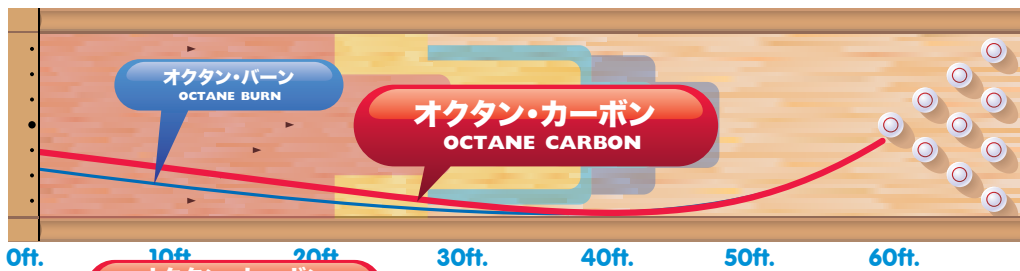
加工

ペーパー

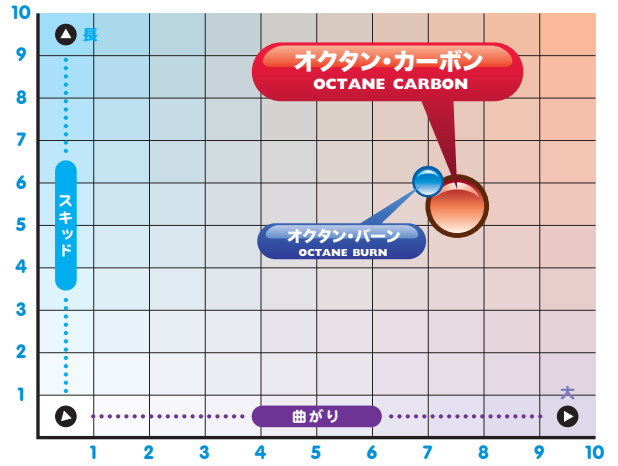
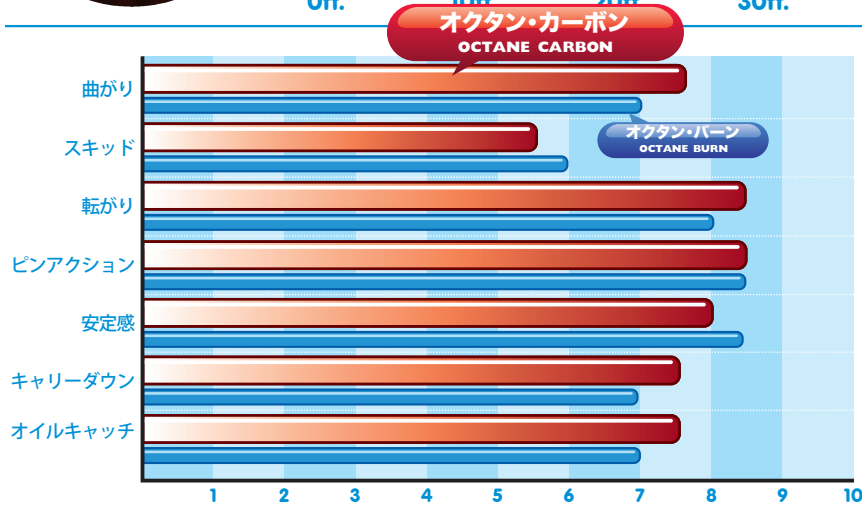
ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

### ボールの評価

medium Lightコンディションで絶大なるBackend motionを演出できるMOTIV社のOCTANE。2015年12月のOCTANE BURN以来、CoreもCover StockもAll NewでこのOCTANE CARBONが発売されます。パワーユニットであるCoreデザインはdual-density Injector coreと呼ばれる二重密度の全く新しい構造で、Cover StockにPARANOIAで代表されるAgitator Pearl Reactiveをベースに、パワーを最大に動きに転化させるための新調合Agitator MXR (MaXimum energy Retention) Pearl Reactiveという作りになっています。

テストングの印象はMidium Lightコンディション領域のスペックなので直進力はありました。ただオイルの中を泳がせてみても滑りすぎる印象はなく、どことなくキャッチを感じながらスキッドしているようにも見られました。印象深いのがBackend motionで、今までのOCTANEのQuadfire Coreよりもややフリップ感が強く思いました。角がでるといイメージよりも柔らかくキレルイメージがあり、扱いやすさを感じる反面、思っている以上に動いてピンヒットする感じが見受けられました。こういう感覚は、曲がり始めの軌道イメージで直感でピンヒットまでの動きを予想しますが、そのイメージをやや超えて曲がっているということであり、MOTIV社が求めた”Maximum Energy Retention”が曲がりとして表現できているということだと思います。走りとドライゾーンでの応答性があるボールは幅を取るラインで必ず必要にある領域だと思います。久々のMidium Light領域でMTIVファンの方々は待ち望んだボールではないかと思えます。Red Fireカラーで爆発力をイメージできるカラーリングですので、大会後半で攻撃的にラインを攻めたい方はこのOCTANE CARBONは欠かせないでしょう。

### 特記事項

まったく新しいCoreとCover Stockの相乗効果を活かし、Backendで強力にボールの性能を印象つけるでしょう。